

## 3 カピターノス



大塚ヒロタ  
Hirota Otsuka



テアトロコメディア・デラルテ主宰。  
NYで演劇を学び、コメディア・デラルテと出会いイタリアに渡る。帰国後、映画「64-ロクコン」「図書館戦争」シリーズで注目を集める。映画「キングダム」ほか映画、テレビで活躍。  
2021年映画「茜色に焼かれる」での好演が評価される他、映画「キネマの神様」、「唐人街探案3」等、話題の映画に出演。'22年開催予定の「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」に出場が決定している。

「ここまで長かった！！」という印象は全くない。気づいたらその時は来ていた。今回の本公演は「スリーカピターノス」。文字通り3人の大ぼら吹き自称大將軍（実は大の小心者）カピターノが登場する話だ。その3人のほら合戦とののしりあい。考えただけで笑ってしまう。この作品のアイディアは私がイタリア修業時代から温めてきたものだ。ただこの作品を成立させるためには、カピターノを演じることができる役者が無論3人必要となる。私がコメディア・デラルテの一人芝居を始めた時カピターノを演じる役者はおろか、コメディア・デラルテを知っている人を見つけることも難しかった。しかしコメディア・デラルテという底抜けに人間臭いこの芝居に魅せられた役者が少しずつ増え、「YOU WILL NEVER WALK ALONE」でカピターノにラッパーの要素を盛り込み観客を大爆笑の渦に巻き込みながらも、どこか説得力のある新たなカピターノ像を確立した生島勇輝、「1+1+1+1=YOU」で奈良から来たカピターノという斬新な設定で誰よりも愛されるカピターノを作り上げ、その不器用さをどこまでも武器にする術を身に着けた板垣雄大、そして本公演では4年ぶりにカピターノを演じる私。遂に3人の個性的なカピターノが揃った！！  
「時は来た！」 この瞬間、そしてピュアな男たちの生き様を大笑いしてください！



生島勇輝  
Yuki Ikushima



2020年から2021年にかけてテレビ朝日「仮面ライダーセイバー」にて、仮面ライダーバスター/尾上亮役を演じ、初のイクメンライダーとして親しまれました。

久しぶりのコメディアデラルテ！皆様、お待たせしました。日本一のカピターノこと生島勇輝です。2019年の気仙沼公演を最後に、コメディアデラルテから姿を消し、別の仮面を被っておりましたが、そちらの任務が終了したため戻ってまいりました。コロナウイルスが蔓延し、舞台というものから遠ざかっていて“舞台をやりたい！”という欲求が高まっていた最中、大塚師匠から連絡をいただき、今回出演する運びとなりました。こんなご時世ではございますが、皆様と同じ空間で、同じバイブスをシェア出来たら、とってもハッピーで、Go Go Heavenだと思います！ちょっと意味不明ですが、久しぶりの舞台を全力で楽しみたいと思いますので、皆様よろしくお願い致します。



板垣雄大  
Katsuhiko Itagaki



現在、TV-CM[AOKI/ビズスタイル篇]  
「プログリット/本気で身につけたあなたへ。篇」などに出演。

もうすぐ12月ですね。12月と言えばコメディアですね。今年で3年連続の参戦です。もう10月下旬くらいから仮面被りたなあーって思ってしまう体質になってしまいました。このままいくと来年には、年末に仮面被らないと年越しできない体質になりそうです。去年のリモート公演を経て、今年はようやくお客さんの前で演れて嬉しいです。今から楽しみで仕方ないです。大好きな2人と最高に面白い作品を届けます!! 最高の年末を共に笑って過ごしましょう！

## 大塚ヒロタのテアトロコメディア・デラルテ



### コメディア・デラルテとは？

16世紀中頃にイタリアで生まれた仮面を使用する即興演劇。最古の職業俳優とされ、日常を芸術の域にまで大袈裟にした、言葉や文化の壁を越えた喜劇。個性豊かな登場人物達はピエロやシェイクスピア、現代アニメのキャラクターとなり受け継がれている。

### テアトロコメディア・デラルテ

「人生はクローズアップで見れば悲劇だが、ロングショットで見れば喜劇だ」を理念に、地球上で唯一人間だけが可能な最も高級な感情「笑い」を大塚ヒロタが皆様にお届けする舞台。

<https://hirota-tcd.com/>

